

## 第3回所長講話 「積小為大」の心で気づき考え行動し子どもを支援できる教師を目指そう

3月30日(水)、所内研修の中で2ヶ月に1回のペースで実施している「所長講話」の第3回目は、『積小為大』の心の気づきで考え行動し子どもを支援できる教師を目指そう」という講話題で、お話しいただきました。

屋良朝苗伝、東京大学卒業式告辞、デザインの力で新時代を切り開く、でもね「このヒトデにとっては大きな違いだろうね」、二宮金次郎(尊徳)の「積小為大」の精神を大切に、等のいくつかの文を読み上げ、そのことについて研究員と互いの考えを言葉として表現し合うことで、知識だけを積み重ねていくのではなく、そのことを活用して人と人をつないでいくことの大切さ、小さいことを積み重ねていくと大きなことにつながっていくことや、身の周りの小さなことに気づき考え行動することが物事の基本であることを熱く語られました。そして、明日、当研究所を巣立つ研究員の皆さんに、「目の前にいる子どもに目を向け、本当にこの子どもたちにとって必要なことなのか、本質を見抜ける教師になってほしい。課題は学校(子ども)にあり解決策も学校(子ども)にある。だから子どもに寄り添う教師になってほしい」と締めくくりました。

## 【所長講話の主な内容】

## 1 屋良朝苗伝(沖縄の生んだ偉大な教育者)

- これでは勉強にも差し障りがくるだろう。なんとかこの水くみから生徒を救う道はないものだろうか
- いつまでもやれるという方法ではないが、やれる間はやろう

## 2 東京大学卒業式告辞

- 専門的能力と豊かな社会的教養を兼ね備えた人間
- そのような人間になるための潜在力の育成
- 生涯を通じての努力と刻苦によって初めて達成されるもの
- カリフォルニア大学の大学院生の行動
- バス停留所のおじさんとおばあさんの行動
- 何かのきっかけがあって小さな雪が転がり出すとそれが次第に発達して雪崩になる

## 3 デザインの力で新時代を切り開く(本質を見抜く)

- これまでは本質的なことには向かわずどんな表現を作れば、インパクトがあるのかという表層的な見せ方ばかりを考えていた
- どうやって斬新なアイデアを生み出すのかイメージを持ち続けると、答えは常に相手の中にある。対象と真剣に対峙すれば必ず答えは見つかる
- 本質を見抜く  
前提を疑う　そもそもこれでいいのか?  
人の話を聞く　相手の言わんとする本意をきちんと聞き出す  
問題を洗い出し取り組むべき課題を見つける  
常にニュートラルで邪心が入るとだめ

## 4 でもね「このヒトデにとっては大きな違いだろうね」

## 5 二宮金次郎(尊徳)の「積小為大」の精神を大切に!

- 補助金を交付すればするほど退廃していく
- 家の掃除・草刈り・一畝　一畝田畑を耕す
- 草鞋を作りみんなに配布　苗種を植えて油を作る　雨の中早朝から働く
- 村人が協力して村を立て直した



写真1 所長講話



写真2 所長講話の様子

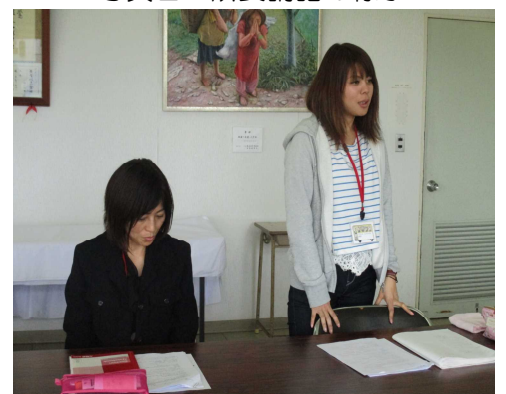


写真3 感想を述べる研究員

【教育研究員の感想】（研修日誌から）

これまで取り組んできた研究を活かすのも大切ですが、まず一番に目の前の子ども達に今必要なことは何か、気づくことが大切だと改めて感じました。実際現場に出ると、方法にとらわれており本当の援助になっていなかったと反省します。

“何かひとつできることを続けていったら変わる” “小さな努力の積み重ねが大きなものとなる” 言葉の通り、私にできる事から実行していきたいです。そして、一人また一人とほかの先生方にも伝わり、みんなで子ども達のために気づき・考え・行動する教師が増えるといいです。人としてどう生きていくのか考えるいい機会となりました。（国吉亜矢）

心に残ったのは、屋良朝苗先生のお話です。校長でありながら、教師のために子どもたちのために苦勞をいとわずひたすら尽くす姿勢に、感動を覚えました。私にできるだろうかと自問自答しながらお話を聞いていましたが、そのお話から、上原所長の思いが伝わってきました。「教師たるものやらねばならぬ」少なくとも、子どもたちのためにできることを精一杯やろうとする教師でありたいと思いました。また、「本質を見抜く力」については、「対象と真剣に対峙すれば必ず答えは見つかる」「人の話を聞くこと」の二つが大事であることがわかりました。つまりは、目の前にいる子どもたちをしっかりと見つめ、子どもが言いたいことにしっかりと耳を傾け、課題を見つけていける教師になりたいと思いました。（比嘉頼子）

知識をよりよく生かすためには人間関係が大切です。学校に戻ったら、学力を上げるのももちろん大事ですが、子どもたち同士のつながりもこれまでよりもっと重視していこうと感じました。デザインの話では、形よりも本質を見抜く目を持たないと本当にインパクトのあるデザインはできないということです。僕はテレビのCMが大好きなのですが、15秒という限られた時間の中で消費者に伝えるためには商品そのものの本質をとらえていなければいけません。教育も同じことで、目の前の子どもを深く知らなければ、どんないい授業をしても効果が少なくなると思います。その子たちに合ったやり方で教育はしていくものだ改めて感じました。

最後の所長講話で、自分のできるやり方で子どものためになると思ったことはなるべく労を惜しまずやっていこうと思いました。小さなことの積み重ねが大きなことを成し遂げる「積小為大」、大きなことが成し遂げられるかはわかりませんが、これからもできる限りの努力を続けていきたいです。（久高友弥）

常に教師として人間としてどうあるべきかを問う所長のお話は、学校現場で即実践できる、または、やらなくてはいけないことです。内容の中にあつた沖縄が生んだ偉大な教育者である屋良朝苗伝では、校長でありながら教師として正しく「率先垂範」の精神で自ら手本を示す姿に心を打たれました。「教師が変われば子どもが変わる子どもが変われば学校が変わる」の言葉があるように、小さな一歩の積み重ねが大きな一歩になるということや方法だけ考えるのではなく、子どもに必要な本質を見抜き、見極めることが大切であることを改めて考えさせられました。研究所で学んだことが雪崩となって浸透できるように、教師としての資質向上に力を注いでいきたいと考えています。（富名腰由紀）

いつも所長の講話は、これからの教育で何が大切なのかを示唆してもらいました。5つの話をしてもらいましたが、共通しているものがあり、ああしろこうしろとではなく、その前にある本質を見極めることが大切である。小さいことでも続けていく事が大切で21世紀型の能力とは、本質は何かを考えてほしいと所長からお話がありました。現場にもどり、私なりの教育の本質を考えながら丁寧に授業をしていきたいと思ひます。（波照間生子）